

神戸フィルの歴史と未来



Conductor
Chitaru Asahina

Happy • Friendly • Open-mind  神戸と街と音楽と

神戸フィルハーモニック 第78回 定期演奏会

創立40周年記念シリーズ vol.1 ~ ウィーンの音楽 ~

PROGRAM

喜歌劇「こうもり」序曲 / J.シュトラウス2世

Die Fledermaus Ouvertüre / Johann Strauss II.

交響曲第25番 ト短調 K.183 / W.A.モーツアルト

Sinfonie Nr.25 g-moll Kv183 / W.A.Mozart

交響曲第2番 ニ長調 op.73 / J.ブラームス

Sinfonie Nr.2 D-Dur op.73 / Johannes Brahms

2019.6.29 土

開場 13:30 開演 14:00

《ロビーコンサート:13:40~ 木管3重奏》

神戸文化ホール・大ホール

●アクセス

神戸市営地下鉄 /「大倉山駅」下車すぐ、バス /「大倉山停留所」下車すぐ
阪急・阪神・山陽 /「高速神戸駅」より徒歩約8分、JR /「神戸駅」より徒歩約10分

入場料 全席自由

●一般
¥3,000 (前売り¥2,500)

●大学生以下
¥1,000 (前売り¥1,000)

※未就学児のご入場はご遠慮いただいております



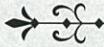
チケット・お問合せ

Ticket Information

- 神戸フィルハーモニック ▶ 公式サイト <http://www.kobephilharmonic.jp/> ▶ 後援会事務局 080-1519-1183
- 神戸文化ホールプレイガイド ▶ 078-351-3349 ▶ ● 神戸コンサート協会 ▶ 078-805-6351 FAX予約 078-805-6352
- ①電話またはFAXによるチケット郵送サービス可 ②FAX予約は演奏会名・チケット種別・枚数と名前・住所・電話番号を明記の上、お申し込みください。



創立40周年記念シリーズ ～神戸フィルの歴史と未来～開催にあたって



1979年に発足した神戸フィルは、今年で40周年を迎えます。そこで、第80回までの定期演奏会を3回のシリーズとして行うことに致しました。vol.1は歴史を振り返り、神戸フィルと切っても切れない“ウィーンの音楽”に焦点を当てます。第1回定期演奏会は、発足した翌年の1980年の1月に行われました。その後、ニューイヤーコンサートを開催するようになり、今では毎年、ヨハン=シュトラウスの“美しく青きドナウ”を演奏し、「神戸フィルのニューイヤーコンサートを聴かなければ年が明けない」と言われるまでになりました。

神戸フィルの成長の指標のような存在でもあるウィーンの音楽を、記念シリーズの1回目に演奏することは私たちにとって身が引き締まる思いです。また、シリーズのvol.2では“未来に向かって”と題したコンサートを予定しています。

ぜひ、神戸フィルの歴史と未来を感じられる演奏会にお越しください。

◆ 神戸フィルハーモニック



神戸市民のオーケストラとして1979年に発足した神戸フィルハーモニックは、幅広い年齢層のファンの方々に支えられて活動を続けています。デビューコンサートをその翌年1月に開催し、以降、年2回の定期演奏会やニューイヤーコンサートを行ってきました。他にも、後援会主催のコンサートや諸団体からの依頼演奏会を行うなど、多彩な演奏活動を展開しています。このように、市民の皆様に身近に、気楽に楽しんでいただけるよう、求め易い価格で良質なクラシック音楽の魅力や楽しさを提供し続けてきた活動が評価され、1997年に神戸市文化活動功労賞を受賞しました。

また、音楽活動を通じて青少年の育成やクラシック音楽の普及にも力を注ぎ、バレエや日本舞踏とのコラボレーション・少年少女合唱団や中学校の吹奏楽部との共演など、新たな試みにも積極的にチャレンジしています。そして、音楽活動を通じて国際交流もおこなっており、1991年にはオーストラリアからクイーンズランド・フィルを迎えて合同演奏会を行い、2010年には神戸市の姉妹都市であるオーストラリアのブリスベンにて、小編成での訪問演奏を行いました。2011年、東日本大震災が日本を襲いましたが、阪神淡路大震災を経験した私たちであるからこそ、復興への思いを寄せ、チャリティーコンサートと南三陸町歌津地区へ訪問し、演奏会や被災された方々との交流を行っています。我々は、これからも、より多くの方々にクラシック音楽に親しんでいただけるよう、日々、演奏活動に励む所存です。

◆ 朝比奈 千足（あさひな ちたる）



県立神戸高校を経て慶應義塾大学法学部に進学し、1966年、同大学卒業後ただちにドイツへ音楽留学する。1971年、ベルリン国立高等音楽学校（現芸術大学）を卒業後、クラリネットリサイタルをベルリンで開催し、クラリネットの独奏者としてデビュー。帰国してからは京都、東京のほか内外の各都市でリサイタルおよびオーケストラとの共演を重ねる。1975年には大阪フィルハーモニー交響楽団の初めての欧州演奏旅行にソリストとして選ばれ、スイス、ドイツ、オランダなど11都市で協奏曲を演奏した。

1976年に指揮研修の為再び渡独、ベルリン国立歌劇場の音楽監督スィットナーの指揮助手を務め、旧東ドイツのズール交響楽団を指揮して指揮者としてもデビューを果たす。翌77年に帰国し、大阪フィルハーモニー交響楽団と東京都交響楽団を指揮して日本でデビューした後、新日本フィルハーモニー、東京シティーフィルハーモニー、の各交響楽団をはじめ、京都市交響楽団、群馬交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢など全国各地において本格的な指揮活動を展開する。

1979年に神戸市のオーケストラ設立計画に参画し、神戸フィルハーモニックの結団と同時に音楽監督および常任指揮者となる。その後も旧東ドイツや韓国、オーストラリアなどの各オーケストラに度々招かれ客演指揮をしている。1991年より3年間、オーストラリア・クイーンズランドフィルハーモニーの指揮者に就任し、このオーケストラの日本演奏旅行を実現させて神戸フィルとの競演も成功させる。また、演奏活動の他、テレビ、ラジオや講演の出演機会も多く、特に音楽についての平易で親近感のある語り口が評価されている。

2009年に神戸市より文化賞を受ける。

2015年、オーストラリア政府よりオーストラリア名誉勲章を授与される。